

「福島子ども・こらっせ神奈川」の 活動紹介

2022年7月14日

本日の内容

- ① こらっせの紹介
- ② 2019年夏 リフレッシュプログラム
- ③ 2019年度 ユース児童クラブ応援
- ④ 2021年12月 省庁交渉
- ⑤ コロナ禍の活動（スタディツアー等）
- ⑥ その他(課題、今後の予定、WEBについて)

本日の内容

- ① こらっせの紹介
- ② 2019年夏 リフレッシュプログラム
- ③ 2019年度 ユース児童クラブ応援
- ④ 2021年12月 省庁交渉
- ⑤ コロナ禍の活動（スタディツアー等）
- ⑥ その他(課題、今後の予定、WEBについて)

「こらっせ」の目的



○活動目的

2011年の東日本大震災、福島第一原発事故を重く受け止め、私たちは被ばくを軽減する方法の一つである「移動教室」のモデルを作り、全ての子ども達の命を守るために活動を開始しました。

○私たちの理念

原発事故直後は「子どもたちの未来のために」とりわ子どもたちの健康を守るというミッションでスタートしましたが、時間の経過とともにフクシマが風化していく現実を実感し、「フクシマを忘れない」というミッションを新たにプログラムを継続していこうと考えています。

一方通行から双方向交流へ

○これまで、夏休み期間に神奈川県山北町で
2012年からリフレッシュプログラムを実施

○2014年には・・・

4月 避難先のいわき市で榎葉っ子と
大学生・事務局による「こらっせ交流会」を実施

11月 榎葉中文化祭を参観、榎葉町を訪問

2014年のこらっせ交流会



一方通行から双方向交流へ

その交流会の中で・・・

「神奈川に行けない小さな子どもたちのために
福島に学生が来て遊んでほしい」

そこで「こらっせユース」が活動を開始！！
大学生が夏休みと春休みを利用して
1泊2日で楢葉町の児童クラブに訪問し
自分たちが企画した遊びを提供しました



「こらっせ」の特色

1. 地域単位(檜葉町・いわき市)で参加
多くの保養プログラムはインターネットで募集
2. 子どもたちだけの参加
多くの保養プログラムは親子保養
3. 学生ボランティアが重要な役割
教員、社会福祉士、管理栄養士等を志望する学生が参加
4. 神奈川の子どもたちとの交流
以前は山北町立三保小学校、横浜市の中学生
5. 自治体間の連携を促進
福島県双葉郡檜葉町、神奈川県足柄上郡山北町
6. 福島っ子の健康に関して省庁交渉を実施



大学生・教員ボランティア



本日の内容

- ① こらっせの紹介
- ② **2019年夏 リフレッシュプログラム**
- ③ 2019年度 ユース児童クラブ応援
- ④ 2021年12月 省庁交渉
- ⑤ コロナ禍の活動（スタディツアー等）
- ⑥ その他(課題、今後の予定、WEBについて)

2019年 プログラム内容

日程：2019年8月5日～8月7日

場所：山北町＋横浜市



	午前	午後	夜
8月5日	いわき出発	オリエンテーション レクリエーション	ウェルカムパーティー 花火大会
8月6日	体育館遊び	川遊び・スイカ割り	バーベキュー キャンプファイヤー
8月7日	横浜へ移動	みなとみらい散策	いわき到着



1日目は列車で移動し
大学生と遊びました。



2日目は川遊びや
BBQをしました





3日目は横浜で 大学生と行動しました！



本日の内容

- ① こらっせの紹介
- ② 2019年夏 リフレッシュプログラム
- ③ **2019年度 ユース児童クラブ応援**
- ④ 2021年12月 省庁交渉
- ⑤ コロナ禍の活動（スタディツアー等）
- ⑥ その他(課題、今後の予定、WEBについて)

2019年 春休み



子どもたちは私たちが来ることを楽しみに待っていてくれたようで沢山話しかけてくれました。体育館での企画は車の工作を行いました。その後子ども園に戻り、自分が作った車をジャンプ台などのコースを走らせて遊びました。



2019年 春休み

あおぞらこども園の部屋が、以前来た時よりも入口から奥の方に移動していました。私たちが、こども園まで歩いていく間に子供たちは窓のそばまで寄ってきてくれました。体育館のレクリエーション(レク)に入る前に世界観を意識してもらおうと「夏野菜の喧嘩」という劇を行いました。そこで、どの夏野菜が1番かを決めるために子供たちにはレクで戦ってもらおう！という流れにしました。



2019年 夏休み

料理教室ではトロピカルカレーと和風ポテトサラダを作りました。料理では、低学年の子を高学年の子が面倒を見ていたり、子ども達の協力が見られました。



東京大学企画の実験に参加しました。内容はセミの抜け殻観察と海岸の地層観察で、ほとんどの児童が楽しそうにセミの抜け殻を見つけては採取を繰り返し、40匹以上捕まえた児童もいました。

本日の内容

- ① こらっせの紹介
- ② 2019年夏 リフレッシュプログラム
- ③ 2019年度 ユース児童クラブ応援
- ④ **2021年12月 省庁交渉**
- ⑤ コロナ禍の活動（スタディツアー等）
- ⑥ その他(課題、今後の予定、WEBについて)

省庁交渉について

神奈川県内で活躍している保養団体のネットワーク「いのち・神奈川」の皆様と一緒に、子どもの被曝及びその他の健康を守る施策を実施するように、という要望を各省庁に行っています。

直近では2021年12月に実施し、2年振りの対面となりました。私たちの要請は、「ふくしまっ子自然体験・交流活動支援事業」（「ふくしまっ子事業」）と小児甲状腺ガンの2つテーマにフォーカスしています。

3.11以後「ふくしまっ子事業」が実施されてきましたが、文科省は新たに2014年度から県外での保養活動にも補助金を出すことになりました。ところがこの制度を民間団体が利用するには、①県外での実施は6泊7日以上、②申請の当事者は、福島県内の社会教育団体という高いハードルがありました。



省庁交渉について

「ふくしまっ子事業」は、2019年度から期間が6泊7日から4泊5日になりましたが、福島県内の社会教育団体による申請という条件は変わりません。依然として県外の保養団体には使いづらい状況です。

「小児甲状腺ガン」を取り上げる背景は、2016年に小中学校で行われている甲状腺ガン検査の縮小が浮上し、その後も過剰診断で潜在ガンを見つけているだけと主張する流れがあります。



交渉時の議事録より一部を抜粋

「質問」 コロナ禍の影響でこの2年間は支援金が使われていないが、支援を打ち切る予定はあるか？

「回答」 ありません、この事業は継続していきます。

「質問」 今年の甲状腺検査の進捗状況、昨年度の検診率も教えてください。

「回答」 令和3年6月末時点で、 対象者252850人 受検者32404人 受検率12.%

本日の内容

- ① こらっせの紹介
- ② 2019年夏 リフレッシュプログラム
- ③ 2019年度 ユース児童クラブ応援
- ④ 2021年12月 省庁交渉
- ⑤ **コロナ禍の活動（スタディツアー等）**
- ⑥ その他(課題、今後の予定、WEBについて)

コロナ禍の活動について

「こらっせ」のプログラムは子ども達と密に触れ合うため、従来のプログラムは中止しなければなりませんでした。そこで、コロナ禍でも今後に繋がる活動を行いました。

- 希望の若芽プロジェクト(2021年3月)
- こらっせ便りの発行(直近は2022年3月)
- 福島スタディツアー(2022年3月)
- 学生や若者を連れて4回、山北町訪問(直近は2022年4月)
- オンライン講演会
(2021年11月 加藤彰彦先生、2022年4月 カルガモ一家)

希望の若芽プロジェクト(2021年3月)

3.11から10年、追悼企画
「希望の若芽(ワカメ)」を食べて
「子ども食堂」へ届けよう
—2袋購入で1袋が「子ども食堂へ」寄付されます—

主催:福島子ども・こらっせ神奈川 協力:都筑リサーチ&アクション

3.11東日本大震災から10年目。被災地から「希望の若芽」を「子ども食堂」などに届けることで、〈福島子ども・こらっせ神奈川〉のミッションである「3.11フクシマを忘れない!」、「子どもたちの未来のために行動を!」を再確認し、追悼のメモリアルとします。(実施期間:2021年3月11日から4月30日)

「希望の若芽(ワカメ)」とは?

通常3月中旬に漁が始まり、6月に市場に出回る三陸ワカメ。陸前高田市広田湾のワカメ漁師、伊藤正光さんが育て、広田に移住した元こらっせユースの石渡博之さんが刈り取ったワカメを現地から直送します。販売して得た利益で再度広田ワカメを購入し、神奈川と福島の「子ども食堂」などに届けます。



内容量:300g
賞味期限:6カ月



採りたての最高級品ワカメです!

3.11の直後、気仙沼の岩井崎漁港は津波に襲われましたが、3月10日に採ったワカメは高台に貯蔵してあったため無事でした。このワカメを販売と支援に乗り出したことが後に「こらっせ」の立ち上げに繋がりました。

こらっせユースの石渡博之さんは、陸前高田市広田町に移住し、ワカメ漁師をしながら被災地だけでなく社会のために働いています。今回得られた利益で再度広田のワカメを購入し、神奈川と福島の「子ども食堂」などに届けます。



オンライン講演会

いつも通りの活動が出来ない中、このような時は原点に戻って「子どもの人権」を学ぼうと講演会を開催しました。

【2021年11月(約60人参加)】 加藤彰彦さん

「子どもたちの未来のために」ー沖縄・神奈川から

加藤彰彦さんは、大学卒業後に小学校教師、30歳で横浜市職員、児童相談所のケースワーカーを経て、50歳から横浜市立大学、61歳で沖縄大学教授と学長を歴任されました。沖縄では、行政や市民と一緒に子どもの居場所づくりをされました。

【2022年4月(約80人参加)】 カルガモ一家

原発事故から11年、自主避難家族の思うこと 聞いて、カルガモ一家の物語を

原発事故被害者の分断、汚染地域居住の危険、避難者への住宅提供の打ち切りと追い出しなどなど。一家はこの不正義を訴え続けています。2018年、16歳になった全生君はローマ教皇に手紙を書き、謁見の場では、原発事故の被害を直接訴えました。



福島スタディツアー(2022年3月)

3.11から11年が経過し「こらっせユース」にも3.11をよく知らない若者が多くなりました。若者の「学び」が必要だと思い、従来の福島応援プログラムに「学び」組み込むことを決めました。その下見の目的も兼ねて「福島スタディツアー」を実施しました。

【1日目】 楡葉町

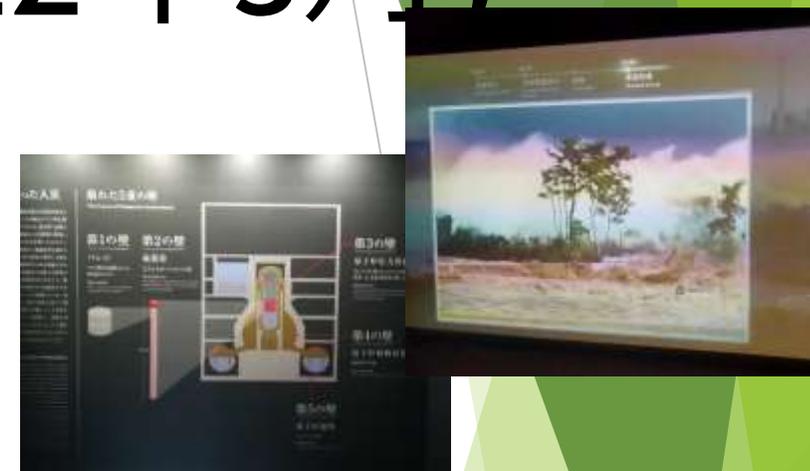
Jビレッジ/楡葉遠隔開発技術センター/みるーる天神
楡葉町社会福祉協議会にて語り部さんのお話



福島スタディツアー(2022年3月)

【1日目】双葉町

東日本大震災原子力災害伝承館/請戸小学校



福島スタディツアー(2022年3月)

【1日目】大熊町・浪江町を通過して福島市内へ



福島スタディツアー(2022年3月)

【2日目】福島市

信夫山周辺見学、子ども食堂関係者等とミーティング



福島スタディツアー(2022年3月)

【2日目】飯舘村

いいいたて希望の里学園・太陽光発電・管理区域ゲート



本日の内容

- ① こらっせの紹介
- ② 2019年夏 リフレッシュプログラム
- ③ 2019年度 ユース児童クラブ応援
- ④ 2021年12月 省庁交渉
- ⑤ コロナ禍の活動（スタディツアー等）
- ⑥ その他(課題、今後の予定、WEBについて)

活動を続けるうえでの課題

○活動するための資金

私たちが活動するにあたって、主な資金源は賛同人・団体からの賛同金と、パルシステムさん等の団体からの補助金です。世間での原発事故への関心が低下、賛同人の高齢化もあり賛同金の集まりが悪くなっています。若い世代にバトンタッチしていくためにも、持続可能な財政が必要です。

○福島の子ども達健康

小児甲状腺ガンの裁判傍聴、省庁交渉では健康手帳の配布など、具体的な要望を今後は更に取り組んでいきたいです。

活動を続けるうえでの課題

○若い世代の意識

震災から10年経過とともに、福島に関心が薄れているのではないかと感じます。今後は若い世代にも伝える必要があります。

●今後は「フクシマを忘れない」というミッションを新たにプログラムを継続し、自治体や関係機関との連携を維持したいです。

□個人的には、活動を続けるための人材育成、応援者を集めるための情報発信にも取り組みたいと思っています。

今後実施するプログラム予定

○8/10と8/18 リフレッシュプログラム

福島市の子ども施設の子ども達、母子施設の母子とともに、裏磐梯湖畔のキャンプ場で遊んでもらう。

プログラム前日に、学生は福島市や飯舘村等を周る「スタディツアー」も行う。

○8/17-18 児童クラブ応援

楡葉町の児童クラブに通う子ども達と一緒に遊ぶ。

語り部講話を聴いたり、町内をまわり「スタディツアー」も行う。

○秋 オンライン講演会 / ○春 児童クラブ応援

ウェブもぜひご覧ください



WEB : <http://korasse-kanagawa.org/>



Twitter :
[korasse_kana](https://twitter.com/korasse_kana)



ご清聴ありがとうございました